



『昨年の実績と研修の必要性について』

発表者：岐阜中ロータリークラブ
研修リーダー 故金 正司

1. 昨年の実績

- (1) 岐阜市たずさえの森における育林事業において環境保全対策に取り組んでいる。
- (2) 出前授業における青少年育成では職業の大切さを講話
- (3) 財団における基金の大切とポリオ根絶のためのポリオプラスについて学習を行う。

2. 研修の必要性について

(1) 必要あり

当クラブでは数年おきに会長の年度計画により実施された経緯はあるが、今年度より年 2～3 回の定期研修を施行しロータリー活動の公共イメージを高めていきたい。ロータリアンはコロナウィルスといかに戦いクラブ活動と公共イメージを高めるか。

(2) 研修予定として (案)

① 公共イメージを高める

会員は奉仕活動を行うためロータリーとは何か、ロータリーが何をしているかについて自ら他の人々に知らせ、地域社会におけるクラブ活動をアピールする。

② 親睦活動と親睦について

親睦活動・・・飲み会やゴルフなどに参加すること

親睦・・・親睦を深める最適の場所は毎週 1 回の例会にある

親睦委員会として毎例会、会員相互の親睦を深める活動に従事して古い会員と融和を深める。

③ 会員増強対策

入会の興味を与えるため、またクラブ会員の減少を防ぐためクラブは現行規定を十分かつ意図的に利用しプログラムの改善、地元地域社会への奉仕を維持改善し個々の会員を効果的に参加させ、その関心を絶えず引き付けけるような活動を行う。

④ 例会出席の意義など

職業上の発想の交換、事業の継続性を学ぶ、友情を深め自己改善を図る